地域連携推進会議 会議資料（R7.12.19）

＝＝＝＝
目次
A.ウィズリブ八幡について
①施設案内・提供しているサービスについて
②医療体制について

B.利用者の日々の様子について
①利用者K様よりウィズリブでの生活についての聞き取り
②支援員より日々の対応について報告

C.非常時の対応について
①自然災害対策
②感染症対策
③火災対策

D.課題、今後の展望について
①ヒヤリハット報告について（ウィズリブ八幡T様事例）
②今後の地域との関係について
＝＝＝＝

A.ウィズリブ八幡について

①施設案内・提供しているサービスについて

①ー１ウィズリブ八幡の施設形態

●エクシー八幡と西岡マンションの二箇所を「ウィズリブ八幡」としている。

静岡市駿河区八幡5丁目13−27　エクシー八幡201・202・204・206
静岡市駿河区馬渕3丁目17-15　西岡マンション101・201・203

また、ウィズリブ岳美、ウィズリブ馬渕というひとつの家で共同生活をするタイプのGHも運営している。岳美は男性、馬渕は女性専用。

①ー２提供しているサービスについて

●西岡マンション定員2名 201・203 (101共有室)
・アパートの個室を提供
→面談は共有室で行う。プライバシー優先で職員が個室に入るには事前に連絡をする。緊急時は合鍵で開ける。

・毎日の面談実施
→アパート型のため、普段の様子が見えにくいため共有室にてご様子の確認と体調のチェック、コミュニケーションなどを行っている。
・服薬管理、金銭管理サービス
→利用者のニーズに応じて実施。

・医療サービス（後述）

・行政手続き
→障害福祉サービス受給者証、自立支援医療受給者証のような福祉サービスの手続きだけでなく、マイナンバーなど各種行政サービス更新、利用のお手伝いをしている。同行もしくは代理手続きにて対応。

●エクシー八幡定員3名 201・202・206（204共有室）
・自立度が高い

・基本的なサービスは西岡マンションと同様。「一人暮らしに挑戦したいけど、精神的サポートや社会生活に不安があるため支援が欲しい」というニーズに合っている。ウィズリブ馬渕や岳美で生活していた方が一人暮らしに向けて移るパターンもある。

②医療体制について
●静岡駅南口クリニックを提携医として契約している
・利用者のニーズに合わせて契約、利用をしている。
静岡県静岡市駿河区南町１８−２ サウスポットガーデン 1F
・精神科、皮膚科、内科の医師で精神から身体まで幅広い体調不良に対応。
・月２回の訪問診療の実施。
・訪看、訪問診療医とウィズリブ管理者でライングループを構築しており、そこで日頃のご様子のやり取りをしている。
・夜間営業をしており緊急時は連絡を入れることで対応可能。（事例１：嘔吐と原因不明の腹痛の訴えがあり緊急での訪問要請。　事例２：高熱が夜間に出たことによる緊急での訪問要請）
・診療後は薬局による配達にて薬が届けられる。

●訪看Luanaと提携契約をしている
・利用者のニーズに合わせて契約、利用をしている。
静岡県静岡市駿河区下島965
・毎週決まった曜日に訪問。
・健康観察（バイタルチェック、面談）を実施。記録の共有を行っている。
・夜間営業をしており緊急時は連絡を入れることで対応可能。
・南口クリニックとは提携関係にあり綿密に連携をとりながら医療支援を行っている。

B.利用者の日々の様子について

①利用者K様よりウィズリブでの生活についての聞き取り

●参加者を交えての聞き取りを実施。
・ウィズリブの日々の支援について思うこと
・ウィズリブでの生活を初めてよかった部分
・ウィズリブでの生活で不便、不満に感じる部分

②支援員より日々の対応について報告

●参加者を交えての聞き取りを実施。
・日頃の支援で気をつけていること

C.非常時の対応について

①自然災害対策

①ー１災害時の対応について

・自然災害対策マニュアルを策定しており、手順がフローチャート式になっており、緊急時に迅速に対応できるようになっている。また、細かい基準を考慮した上で指示待ちにならず、現場で判断ができるように整えている。
・安否確認が最優先。
・利用者居室が散らかりやすく、災害時にケガの恐れがあるため、時折声掛けをしてこまめに整理頂いている。

①ー２施設備品について

・備品については食料と水はもちろん、前年度から携帯トイレを導入した。備蓄については基準である5日分あるが、補助金を使いながら、基準値よりも多く準備していく予定。必需品の基準については静岡市の防災マニュアルを確認した上で判断準備を行っている。
・備品の点検については毎年開催している防災訓練時に社内事務と連携をとりながら不足があれば補充を行い、消費期限の確認も含め行っている。備品の場所についてもマニュアルに記載。
・岳美に関しては防災用品が散逸気味であるため、防災ボックスを作ってひとまとめにする必要があると考えている。

②感染症対策

②ー１平時の対応について

・消毒液、マスク、ガウンの定期的な在庫確認を管理者で行い、非常時に備えている。
・消毒チェックシートを活用して毎日の消毒を習慣化し、予防している。
・訪問看護と業務提携をしており毎週健康観察を実施している。

②ー２発生時の対応について
・感染症マニュアルを準備しており、こちらも手順が明確化されている。
・災害対策と同様、定期的な研修を実施。
・コロナ禍以降は風邪といった軽い症状でも感染が広がらないように現場報告と迅速な対応、指示を行っている。
・2025年度は利用者が複数名感染していったことは起こっていない。
・インフルなどの発生時は自室療養を行い、職員はガウン対応。関係機関への迅速な連絡を行っている。

③火災対策
③ー１発生時の対応について
・自然対策マニュアルにてフローチャートを明示。
・マニュアルにて消化器と避難場所を指定している。
・火災時の動きは年に一回防災の日に利用者と確認を行っている。

D.課題、今後の展望について

①ヒヤリハット報告について（ウィズリブ八幡T様事例）
①ー１経緯
2025年某日、八幡利用者Tさんが近隣住民から挨拶を受ける。
Tさんは全般性不安障害で人とのコミュニケーションに恐怖を感じやすく、逃げ出してしまった。
→該当のアパートの住民と職員でお話しをし、Tさんの情報を一部開示し向こうも「大丈夫ですよ！むしろ不安にさせたようですみません」とお返事いただきことなきを得る。

①ー２課題
・基本はGHであること、利用者で障害があることは近隣住民には十分には伝えていない。また、利用者もそれを望んでいないため、イレギュラーな接触やコミュニケーションが発生した時に対応が難しい。

①ー３ 総括
・地域に開かれたGHであるために周辺住民への配慮も同時に気をつけなければならない。GHの不注意が利用者への偏見や差別を助長する。
・八幡は自立度が高いものの、精神疾患によるトラブルについては十分に考えられるため、近隣住民などとの関係についてはより一層注意をはらい、コミュニケーションが必要な際は助力をして行きたい。

②今後の地域との関係について
●八幡の利用者の特性上、周辺との交流は難しく、「GHであること」を開示してほしくない利用者がほとんど。

→開示情報を適切に絞りながら職員と管理者で周辺住民と関わっていく必要がある。
・実際近隣住民とは職員が間に入ってやり取りをしており、大きなトラブルもないため、特に偏見や苦情はなく挨拶をされたりと良好な関係を築けている。
・近隣住民によってはどんな方が生活されているのか気になっている方もいるが、プライバシー優先で最低限の情報だけお伝えしている。
・地域行事（清掃など）は職員のみ参加をするなどで対応。